

# 教育情報化の最前線

～ICTメディアの健全な利活用の促進に向けて

総務省 情報通信政策局 情報通信利用促進課



## 第19回 「ネット社会と子どもたち協議会」における取り組み

今回は、ネット社会の負の影響から子どもたちを守り、豊かなネット社会の形成と子どもたちの健やかな成長を支援することを目的として活動されている「ネット社会と子どもたち協議会」（通称：ネット子）の取り組みを紹介していただきます。

今後の活動については、これまでの蓄積をもとに、情報や意見をさらに活発に発信していきたいとのことで、ますますのパワーアップが期待されます

### 子どもを守り育てるために 保護者が「人間フィルタリング」 になろう

ネット社会と子どもたち協議会  
佐藤 (Emily) 綾子

#### ■協議会設立の背景

2004年6月に長崎県佐世保市で起きた小6女兒による同級生殺害事件は、インターネット上のトラブルが事件の一因ではないかと報じられ、社会に大きな衝撃を与えました。

「これまで大人たちはIT化に一生懸命取り組み、未来の便利な道具としてパソコンや携帯電話を子どもたちに与えてきた。だが、コミュニケーション力や判断力が未発達なうちから自由に使わせたらどうなるか、という危険性までは考えが至らなかった」と多くの人々が感じたのです。

その直後、「このままではいけない、何かしなければ」と危機感を抱いたNPO、教育・研究機関、民間企業、行政などさまざまな分野の人々が東京で「ネット社会と子どもたち協議会（通称「ネット子」<http://net-society.org>）を設立しました。そして10月、メーリングリストでの1700通以上のメールのやりとりや、十数回の会合を重ねた後、東京都に対して「緊急提言」を提出しました。

緊急提言では「インターネット（ネット）社会の負の側面が今後、急激に増加し、子どもたちに悪い影響を与える可能性が高い。問題解決のためには、安全・安心なネット環境の構築やIT社会を生き抜くための新たなスキルやリテラシー（ネット上の判断力や対応力）の向上をめざすだけでなく、子どもの成長環境全般も見直さねばならない」と訴えかけました。

この提言が1つの契機となって、子どものネット利用に際しての事業者や保護者の責任に関する条文が、「東京都青少年の健全な育成に関する条例」に新たに追加されました。条文にはたとえば「子どもが安全にネットを使用できるよう、子どもを教育し、適切な対策を講じなければならない」という保護者の努力目標が示されています。改正条例は2005年10月に施行され、同様の条例改正の動きは全国に広がりました。

#### ■「ネット子」の現在の取り組み

最近の第5回「小学生のインターネット利用に関する調査」（gooリサーチ）によると、ネットは小学1年生までに約5割がすでに経験しています。また2006年度に警視庁が都内で行った調査によると、小学生の3割以上、中学生の6割以上、高校生の95%以上が携帯電話（ケータイ）を所持しており、特にここ1～2年で急速に低年齢化が進んでいます。そしてケータイはますます多機能化し、いわばユビキタス社会のパーソナル・ゲートウェイとなりつつあります。

しかし、ユビキタスなネット社会においても、子どもがいきなり「いつでも・どこでも・だれとでも」つながってよいはずはありません。ネットに接続したケータイやパソコンは便利な反面、子どもが不適切な有害サイト、あるいは悪意を持った人にもつながってしまうという危険を伴います。大人は、安心・安全につながる仕組みや制度を整えていく一方で、年齢に応じたネット教育を通じて子どものスキルやリテラシーを高めていく必要があります。たとえば、はじめて自転車に乗る際には乗り方の技術だけではなく、交通ルールやマナーを教えるようにです。

ここ数年、ネットの安全利用や情報モラルに関する教材資料やサイトが数多く作成され、各種の啓発講座も開催されてきました。しかし、これらは個々の実施主体の工夫や対応に留まり、それぞれの連携はあまり進んでいないように思います。

そこで、私たちは「ネット子」ウェブサイトを立ち上げ、ネット関連のさまざまな取り組みや情報や知識を集積して共有するためのポータルサイトを作ろうと努めています。その内容を簡単にご紹介しましょう（2007年10月現在）。

- ネット子リンク：ネット・ケータイの指導教材や利用法などの情報を提供している国内の機関やサイトを集めたリンク集（約170サイトを掲載）。
- あったかリンク：子どもたちの健やかな成長を支援するサイト集（約60サイト）
- 参考書籍・情報源：約50冊/サイト
- Tips（アピール・ルール・チェックリスト）：ネット・ケータイ・メディアのよりよい利用法に関するもの約30種類
- Laws（法令集）：ネット関連の法律・条令・条約など約





「e-ネット安心講座」の講座風景



## 30種類

- ネット子コラム：ネット関連用語の簡単な解説
- 海外情報&リンク：海外の機関や団体へのリンク（約40）と、海外のネット関連ニュースの紹介（月1回程度更新）。
- 報道記事見出しデータベース：2005年以降の子どもとネット関連のニュースや連載シリーズの見出しを掲載（月平均30件）。

また「ネット子」は次の子ども向け標語を提唱しています。小中学生は、「暇なとき」にネットやケータイを使うことが多いようですので、そこからヒントを得て創作しました。

## ★ネット安全標語「ひまだけどね」

ひ ひらかない しらないひとから きたメール  
 ま まわさない これをまわせと いうメール  
 だ だれだろう？ いつもかくにん メールやケータイ  
 け けんしょうや プレゼントには きをつけよう  
 ど どうしよう まよったときは すぐそうだん  
 ね ネットでは おくるまえに よくみなおして

この標語は、「ネット子」の一部会員も講師として協力しているe-ネットキャラバン\*の「e-ネット安心講座」などで紹介しています。



「ネット社会と子どもたち協議会」のホームページ

## ■今後の活動：情報収集から情報発信へ

「ネット子」の設立から3年余。残念ながら「緊急提言」で危惧したように、ネット社会の負や間の部分はその後さらに拡大しています。最近ではメール、掲示板、ブログ、画像、動画などを利用した「ネットいじめ」に関するニュースが相次ぎ、今年7月に神戸で高校生が自殺した事件の背景にも、メールによる脅迫やネット上での嫌がらせなどがあったと報じられています。しかし「うちの子は大丈夫、加害者にも被害者にもなるはずはない」と楽観している人が多いのでしょうか、大人の危機意識は高いとはいえません。子どもに見せたくない情報を遮断するフィルタリングソフトの利用率（PC）もまだ2割以下です（前述のgooリサーチ調査）。

「ネット子」はこれまでの蓄積を元に、今後はスキル・リテラシーに関する情報や意見をもっと発信したいと考えています。また、市民や保護者の立場から情報発信や啓発を積極的に行っている海外のネット関連団体とも連携できればと願っています。子どものケータイ利用という面では、今の日本は世界の先端を行っています。その負の面を含めた経験から他の国々が学べることは数多くあるでしょう。

最後に保護者の方々に。子どもが自己の判断や責任で使えるようになるまでは、ケータイやパソコンをオモチャのようにただ「買い与える」のではなく、年齢に応じた安全対策を講じたり利用のルールを作ったりしたうえで「貸し与える」という意識を持っていただきたいと思います。たとえフィルタリングソフトなどの技術で安全策を講じたとしても万全ではなく、抜け道はいろいろあります。結局は、身近にいる保護者が想像力を働かせ、「人間フィルタリング」（群馬大下田教授による）となって子どもを守り育てていくのが不可欠なのです。

## Profile

佐藤 (Emily) 綾子くさとう・えみりー・あやこ  
 サンフランシスコ生まれ。ICUと上智大大学院でコミュニケーションを学ぶ。フリーの翻訳・通訳業の傍ら、日本女子大・日本獣医生命科学大の非常勤講師として英語やネット利用を教えている。仕事柄、PCやネットは毎日使用。ネットは1996年頃、当時小学生だった娘と共に使い始め、その良い面も、急激な普及とともに拡大した危険な面（荒らし、フレーミング、なりすましなど）も身をもって経験してきた。本協議会では運営委員として情報収集を担当。

\*「e-ネットキャラバン」は、都道府県・文化科学省および業界6団体で実施するインターネットの安心・安全利用に向けた啓発講座で、子どもを見守る立場にある保護者や教職員を主な対象としている。